

丸山湿原群保全の会会報

(第 217 号)

発行日：2025 年 (R7) 8 月 20 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com



戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します！

やっと雨が降り一息付けるかと思いきや、湿度と気温は下がらず大気に溺れるような気分です。九州や北陸方面では災害級の大雨。西谷方面は？降った。が溜池は満水にならず。また地獄のような灼熱が襲いかかって来ました。

実際の気温が何度かは不明ですが、あてにならない天気予報を見て 35℃以下なら安心する感覚になっているのが不思議です。慣れ（暑いけど）とは恐ろしいものです。

人は言葉や映像（プロパガンダ？）などで慣れますが自然はどうでしょうか？フェノロジーのミスマッチ（生物季節の不一致）が最近現実になっているという報告も。花の咲く時期と送粉者の昆虫の時期がずれる。当然植物は実（種）を作れない。種の減少へ。昆虫も然り。成虫になったはいいが蜜がない。ま～最近暑さのため？少雨のため？昆虫自体が減っていることは実感としてあります。これも「ミスマッチ」から来ているのかもしれませんが。しかし少雨の時はイナゴが異常に発生します。ある種の生き物だけが增える…82億に増えた生き物もいます。イナゴが増える原因はよく知りません。天敵の問題か？ただ、自然（野生？）の世界が環境をコントロールすることはない。水が枯れかけた田んぼにオタマジャクシが水道の栓をひねることはできない。ということは「適応進化」しかない。DNA を変化させることでしょうか？（知らんけど）水田雑草が除草剤に対して耐性を持つのも「適応進化」？進化が間に合わない場合は絶滅と…「植物」の場合、シードバンクで残り復活するという可能性もあるようですが、「動物」の場合はまず難しいとか。

82億の生き物が「適応進化」できるのか？それともやはり環境コントロール（機械的に）し続けるのか？環境を急変させている生き物の責任を…戦争なんかしてる場合ではないんです。永久凍土は融け続け、泥炭は分解。CO2 はどんどん増え続ける。しかし温暖化は妄想か？またまた、甘ちゃんの独り言でした。
(今住 8 月 16 日作成)

定期活動 ★作業 サギソウ開花数調査ルートササ刈り 7 月 27 (日) 9 名で作業

7 月 17 日に少しまとまった雨が（40mm 程度？宝塚市大原野データ）降り、その名残か湿度が高い。いまだ山からの出水はわずかな状況でした。この月末はサギソウ（鷺草）が開花の時期。実は約 10 年前には 7 月中の開花はまれ。それがだんだん早くなり（温暖化？）、この時期に咲き始めるのが当たり前になっていました。（2016 年 会報 108 号参照）ナラ枯れが全盛のころでした。

ところが今年は水不足が影響しているのか、猛暑が影響しているのか花が見当たりません。確実にあるはずのところを探してみると、辛うじて蕾を見つけることができました。少し花卉の白さが見える程度。しかも小いぶりに見えます。



咲いているはずが 蕾未だ硬し？



ずっしりと重い刈り払い機 疲れます



刈り取ったルートの草を処理 暑い



エコトーンには見えんな?



ホザキノミミカキグサとミミカキグサ



ほぼ水の流れのない水路

今回の作業は、8月23日(土)に実施される「サギソウ開花数調査」のルート確保。はびこったササや木本を刈り取ります。水のある所(ヌマガヤ・オオミズゴケ生育域)を境に作業。まさしくエコトーン(移行帯 水域→陸)部分なんですけど、カラッカラの状態。先日の雨は全て吸い込まれたようです。しかしミルフィーユ状の地層の切れ目からはわずかに水が出ているようで、水域?には湿り気があります。湿り気さえあればサギソウは生き残れそうですが、球根に「力」が無ければ花が咲かないのでは?今年度のハッチョウトンボの激減



土囊ダムも干上がりかけ

(あくまでも感覚)も含め、「丸山湿原」最大の危機かもしれません。本来なら梅雨～梅雨末期があり最も潤う時期。潤うと言っても大体一定の湿り気と水位なんですけど・・・年々水の量が減ってきているような気がしてなりません。お天道様のことはどうしようもありませんので、作業は熱中症に気を付けながら黙々と。しかも早い目の切り上げとしました。「気力が続かん」としみじみ感じております。

やる気を失う情報ばかりでは情けない。咲いている花も。アギナシ(顎無)、ミミカキグサ類(耳搔草)、ミカツキグサ(三日月草)は咲いています。

昨年の「調査」は8月10日。過去最も早い調査でした。(558株確認)

今年度は例年通り20日前後に戻します。

8月に入ってあちこちからサギソウの情報が入ってきています。「咲かない?」「大体約1週間の遅れ」とも。数については不明。いずれにせよどこも遅いか咲いていないという情報です。

次回活動は調査のためのルートラインとブロックラインの設置。さてサギソウはどれくらい咲くのでしょうか。どう考えても少ないと予想されます。

もう1点、歩道の橋の穴情報。ずいぶん長い間放置されていた橋の穴ですが、7月25日に修理完了しました。落ちた人もいたのでは?これからは安全です。工事関係者の皆様(県・西谷自治振興)ありがとうございました。



アギナシの花



カバー工法?スギ足場板で修復

定期活動 ★基礎調査 作業 サギソウ開花数調査用ルートライン・ブロックライン設定

8月9日(土) 10名で作業

咲いてました！前回全く開花していなかったサギソウがポツリポツリと確認できました。9日ですから去年は既に500株以上開花していた時期。ひょっとしたらこれがピーク？のはずはないのですが、「水」の量は相変わらず少ない。この時期までに球根が十分栄養を蓄えたとも思えない。

今日の作業は2週間後に行われる「サギソウ開花数調査」のルートセンサスライン(黄)とブロックライン(青)の設置。さて花がこれからどれだけ咲き、2週間後まで持つか？それとも2週間後がピークで「いつもと同じじゃん」となるのか、楽しみやら不安やら。



とりあえず安堵の開花 サギソウ

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山	30	40	入口	10:00	25.5℃		
ハイキング・登山	25	28	第3湿原	10:25	27.1℃【23.6℃】	31.2 μS/cm	6.5
散歩	8	8	視点場	10:43	29.1℃	※ μS/cm	不可
来場者数計 139人 (竹筒ポスト集計)			第1湿原	10:50	29.7℃【25.0℃】	30.9 μS/cm	6.6
			第2湿原	11:10	29.3℃【23.7℃】	28.8 μS/cm	6.4

※視点場のEC・PHは水なし。

前日の雨のおかげで少し涼しくなりました。今回は20mm程度。(大原野データ)20日前に降った雨と合わせて山から水が出だしたような…川(沢)にも流れが。サギソウには遅すぎた？先に書いたように咲き出していることは事実。絶滅はない。(当たり前か？)しかし湿原内の水量はまだ増えず。徐々に回復する可能性はありますが、また高温になるという予報。

高温による蒸発は結構凄まじいものがあります。雷雲(積雷雲)を作るんですから。しかしなぜか丸山周辺は避けて通る。「夕立」なるものも最近では経験がないような。スマホで雨雲レーダーを見て「来るぞ来るぞ」と期待しても「かすめる」程度、もしくは突然消える。地形がそうさせるのか？市街地との降雨量も段違い。



頑張ってるセグロアシナガバチ

湿原へ向かう途中でセグロアシナガバチ(背黒脚長蜂)が巣を作っていました。攻撃性は低いので放置。ただしイタズラしたら刺しますよ。今年はアシナガバチの巣をよく見ます。が、他のハチは少ないような…。でもこれから



雨で堆積したほぼ真砂土？

がスズメバチ類の巣が大きくなる時期、油断は禁物です。

川を見ても大して降っていないのに土砂(ほぼ真砂土)の流出も。上部にはげ山(ズリ)がある証か？

ラインの設置です。毎年行っているのが慣れたもの。しかし、なぜかブロックライン(ブロック)の数が増えた年もあり、慎重に確認後作業。マーキングはしてあるので間違えることはないはずなのに、マーキングが2つあったりすることも。



ルートとブロックのクロスポイント

結果として「総数」がわかれば問題はないのですが、ブロックごとの増減も貴重な資料になります。今年は間違いなく設置完了。あとは、23日を待つばかりとなりました。ワクワクヒヤヒヤの調査です。



ヒナノカンザシ

この時期の湿原での楽しみは、小さな花々に出会えること。その代表格はヒナノカンザシ（雛簪）。25府県で絶滅危惧種に指定。小さいしメジャーではない。見つけるのも困難な植物です。写真に撮りづらいこともマニアックになってしまう要因でしょうか。しかし、名前の通り「お雛様の簪（かんざし）」のように「きゃわいい〜」。ぜひ見に来てほしいものです。同じ雛の名前がつくヒ



ヒナノシャクジョウ

ナノシャクジョウ（雛錫杖）もこの時期。菌従属栄養植物。アーバスキュラー菌根菌（AM菌）から全養分をもらっています。このAM菌はどこにでもあるのですが、畑の土壌改良剤として販売もされています。VA菌も同じもの。肥料として買うと異常に高い！自然にあるものなら増やす工夫をした方がいいと思います。私、「ボカシ」すら買ってますが…情けなや。ヒナノシャクジョウを見ていると、近くにランらしきものが。キンラン？ギンラン？ギンランは記録なし。花は終わった様子。来年は注意して観ていきたいものです。でも忘れるんですよね〜。去年も言ってたかもしれません。ダメですね。



もう一つ。帰り道、新しいトゲアリ（棘蟻）の集団（巣？）を見つけました。これも貴重種（環境省Ⅱ類）。クビオレアリタケの寄主です。近くにも巣があって分かれたの



たくさんのトゲアリを発見

かもしれません。以前にも書きましたが「一時的社会寄生」を行い、一匹の女王蟻がクロオオアリやムネアカオオアリの巣を騙して乗っ取ります。働きアリがたくさん見られたということは、すでに社会寄生が終わりトゲアリの巣が完成したのでしょうか？その蟻にさらに寄生するクビオレアリタケ（キノコ）も恐ろしい。さてこの集団はキノコにやられるのでしょうか？乞うご期待！

環境パネル展 ★8月6日～11日 宝塚市立文化芸術センター1階



他団体の準備風景

く吊り下げポスターとして頑張っていたいただきました。大きいので結構目立ち面白かったのではと思っています。ただ「カエル嫌い」の方には恐怖にしか感じないポスターかも。「環境都市宝塚推進市民会議」主催。参加団体の多くが出品。日曜日には「宝塚市自然保護協会」と「C・キッズ・ネットワーク」がワークショップも実施。今までになかったパネル展になりました。宝塚市環境エネルギー課・市民会議の皆さんご苦労様でした。



ニホンアカガエルの水中写真ポスター

次回活動日 8月23日（土）サギソウ開花数調査 24日（日）活動なし 9月13日（土）27日（土）ツアー